

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100933		
法人名	有限会社 グッドウィル		
事業所名	グループホーム 武佐の杜		
所在地	北海道釧路市武佐1丁目9番24号		
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0174100933-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が研修会に参加し毎月事業所内の勉強会と1階・2階の職員交換研修を行い職員のレベルアップに努め、利用者本位で楽しく生活して頂ける様な支援を心掛けている。花見・他グループホームのお祭り参加・市のシルバー作品展出展・見学、ホーム内では屋外焼肉会・芋堀り・クリスマス会・餅つき・新年会・ひな祭り等季節の行事を行い、ご家族も交え利用者同士の交流も図っている。ホーム主催の秋祭りには、町内会会長、女性部、地域のボランティアの方々の協力を得ている。地域児童センターの子供達との交流会も年3回行い、近隣幼稚園児を含むボランティアの方々のクリスマスキャロル訪問や子供達のバレー訪問も受けて地域の子供達との交流も図り、利用者にも楽しんでもらっている。又、地域の聞き方ボランティアに毎月訪問して頂き、開かれたグループホームを目指している。運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、毎回家族会会長、町内会会長、包括支援センター職員より親身で適切なご意見を頂いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成27年3月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 武佐の杜」は、運営者及び管理者を中心に花見や紅葉狩り、他グループホームのお祭り参加や利用者の作品を出展した市のシルバー作品展、動物園や博物館見学など、利用者が出来る限り外出でき、楽しめるよう取り組んでいる。事業所内でも屋外焼肉会・芋堀り・クリスマス会・餅つき・新年会・ひな祭り等季節の行事を行い、家族も交え利用者同士の交流を図り、事業所主催の秋祭りには町内会会長、女性部、地域のボランティアの方々の協力で踊りの披露や玉入れ等のアトラクションで地域住民、利用者、家族が楽しく交流している。また、地域の子供達と交流する機会も増え、地域児童センターの子供達が定期的に訪問し、けん玉や将棋、トランプ遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居、歌を披露するなど利用者とは交流している。近隣幼稚園児を含むボランティアの方々の訪問や子供達のバレー訪問も受けて地域の子供達との交流を積極的に行い、利用者が楽しんで過ごせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者は認知症であっても地域社会の一員であるという思いを理念にしており、職員会議での研修報告で、振り返りを行うことで意識を共有している。	事業所独自の理念を作りあげ、申し送りや毎月のフロア会議等を通じて振り返る機会を作り、理念を共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して町内会長、女性部、地域のボランティアの方々に、ホームの運営や利用者の生活状況について開示しご理解、ご協力を求めている。ホームの行事や避難訓練への参加もあり、地域児童センターの子供達との交流も増えている。	町内会長・女性部・地域のボランティアとの日常的交流や運営推進会議を通じて意見や助言を貰いながら事業所の行事に参加を得ている。また、地域の幼稚園や児童センター、パレエ教室の子供達との交流や舞踊等の地域ボランティアの来訪で交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の包括支援センターを通して、近隣の在宅で認知症介護をしている家族の方が見学し、ホームで暮らしている利用者の様子に触れ参考にされている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、経過報告や利用者の状況、ヒヤリハット、事故報告、行事、研修報告を行い家族会や町内会長・包括センターの方々より意見を頂きサービスに活かしている。外部・自己評価について取り組み状況、経過、結果を報告し意見を求める。	運営推進会議は2か月に一度開催し、事業所の状況や行事の取り組み、ヒヤリハットや事故報告、研修報告等について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは必要時に相談、連絡をしている。地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて相談、助言を頂きサービスの向上に努めている。	市担当者や地域包括支援センター職員とは運営推進会議や日常業務を通じて情報交換を行い、事業所内の実情を理解してもらい、気軽に意見交換できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を受け職員会議の中で報告、確認し統一したケアの実践に努めている。利用者の行動を施錠で止めるのではなく、利用者の気持ちを理解した上で同行し、寄り添い、納得して頂く支援をしている。	管理者及び職員は外部研修や内部研修を通じて、身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われている。また、玄関は夜間の防犯目的以外の施錠は行っておらず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員会議と毎月勉強会を行い、統一したケアに努めている。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所は、研修を受けて理解に努めている。必要になる方については、市役所に相談し、活用に向けて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族等に、特にホームでの生活の継続が困難な場合の説明を十分に行い、納得の上で契約を結ぶよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満・苦情等については、訴え時しっかり傾聴し会議でも話し合い解決に努めている。	来訪時に意見や苦情、要望等を聞き取り、家族から意見や要望があれば速やかに話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のフロア会議で職員の意見や提案を聞くようにしている。事業者・管理者は必要・希望時に応じ職員と面談を行い意見を聞き運営に反映させている。	運営者及び管理者は、毎月のフロア会議や日常業務の中で職員からの意見や要望、提案を聞く機会を設けている。また、必要に応じて個別に面談して意見や要望等を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と連携を取り、又個人面談での意見を参考にし働きやすい就業環境を整備するよう取り組む。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修を受ける機会を確保しており、管理者はその為の勤務調整を行っている。又、毎月勉強会を行ったり、ホーム内の職員交換研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交換研修や勉強会等の機会を設けている。又、そのときの報告を会議にて行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人に関わった事業者や病院などから情報収集をし本人の意見や思いを傾聴し安心してサービスを継続出来るように努める。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談や意向を充分傾聴し不安要因の軽減に努める。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族との話し合いの中で何が必要なのか職員間でも協議しながら初期支援計画を作成している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事になるべく着目し(洗濯・掃除・調理・縫い物等・畑仕事)職員と一緒に生き生きと生活出来る関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には、日々の様子を伝えており本人の意向や訴えに対しても電話連絡をし催し物などの案内を行い時間を共有出来るように働き掛けている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が会いたい人と連絡を取る事を支援したり、馴染みの人が来設の際居室にてくつろいで頂ける様な対応また来訪していただける様な雰囲気作りに努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や知人等の来訪でのおもてなしや買い物、理美容院等、馴染みの場所へ行けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護員が間に入り関係作りを支援している。本人に合った役割を持ち、時には助け合い、支えあいながら生活を送っている。			

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の来設時には、いつでも立ち寄って頂けるよう声をかけている。退居してからも相談を頂いたり、様子を報告頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にアセスメントの記入をお願いしている。本人との会話の中で趣味・嗜好や経験等、表情や言動から本人の思いを汲み取る様に努めている。職員は関わりの中で変化する利用者の気持ちに向き合って得た情報を介護日誌に記録し会議や申し送り共有している。	センター方式を活用して一人ひとりの生活歴や生活する上での希望や意向を把握し、日常の会話や表情の中からも本人の思いを傾聴するよう取り組んでいる。また、家族や本人の意向や希望を聞き取りながら本人本位の生活が出来よう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や関係者等から話を聞きより多くの情報を得る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を介護日誌や本人の会話から把握し、健康状態を観察、検討し過ごし方に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題・短期・長期目標等を会議で話し合い、家族の気持ちや、家族、職員の意見を取り入れ利用者の現状に即した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族と話し合い、それぞれの意見や思いを反映させるよう取り組んでいる。また、毎月のフロアー会議で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に概況を記録している。又申し送りノートの他申し送りの時間を設け確実な伝達と共有を図っている。抽象的な言葉ではなく具体的な言葉で記入している。家族と話し合いプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて通院や外出の支援をしている。食事は好き嫌いや健康状態に適した献立にする等配慮に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加している。ホームで開催している秋祭りでは町内周辺にチラシを配布し参加を呼び掛け、参加して頂いており交流を深めている。地域の理美容室が来設している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診している。ホームの協力医との連携に努めており、家族の希望や相談に応じて依頼している。最近では通院が困難なケースが増え往診の利用が多くなっている。受診結果は通院記録等に記入し次回に適切な医療を受けられるように支援している。	受診は、本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や事業所の看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員と連携を取り適時に健康管理、医療支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホームよりフェイスシート、アセスメント等を送っている。口頭で説明し情報をできるだけ詳細に伝える様になっている。医療機関からの相談にも即時対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認し本人にとってどうあったら良いか段階ごとに医師、家族と連携を取り対応、方針の共有を図る。重度化のマニュアルや指針を入居時に説明している。現在まで看取りの経験はないがその為の勉強会を実施している。	重度化した場合や終末期のあり方について、利用時には看取りに関する指針を説明し、早い段階から本人・家族と話し合い、医師、事業所の看護師が連携を取って事業所ができることを家族に十分説明し、方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し定期的に訓練に参加している。急変時の対応方法は掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。災害発生時には地域の方々との協力体制もできており連絡網もある。日中、夜間想定火災の避難訓練を実施している。地域の方々の参加もあり、通報する関係機関の連絡網等を整備している。災害時備蓄庫を設置し備品を用意している。	消防署や地域住民の協力を得て、年2回夜間を想定した火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーの設置や火災報知器や通報装置等の定期点検も行われ、災害時備蓄庫を設置し、非常時に必要物品を備えている。	今後は火災報知器と通報装置を連動したシステムが導入された際の避難の手順や方法等についてのマニュアルの見直しを検討しているので、その実践に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室・トイレ等入室時は必ずノックする。パット確認等は他者に聞こえない様傍でさり気なく言葉掛けをする。拒否時は無理強いせず時間をおく。思いを否定せずその時の状況に沿った言葉で声掛けをする。言葉がけは目線を合わせ、そばに寄り尊重した対応をする。異性の介護を拒否される方には同姓の介護員が対応する。	一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心がけている。また、記録などの個人情報の扱いは十分に注意して取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が出辛い方にもゆっくり本人の言葉で話せるように待ったり、なるべくそばに寄り添い会話を多く持ち、思いや希望を汲み取り納得、安心して頂き、自己決定できる様努めている。答えが複数ある質問は避け混乱しない様配慮する。理解力に合わせた言葉を選択したり、話すスピードを考慮している。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活パターンを理解、把握し業務優先ではなく本人からの希望を優先し一緒に考え実現に努める。安心してその日を楽しく穏やかに過ごせるように支援している。就寝、起床時間は本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴後は本人の希望の衣服を選んでもらう。季節に応じた服装や身だしなみに配慮している。近隣の理美容院に行き来したり、本人の馴染みの所を利用し、希望に沿ったおしゃれをしている。髭そり等の声かけ、髪を整える等はブラシを手渡し自力で行える様に支援をしている。服装や髪の流れがないか確認している。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合わせ、苦手な物、嫌いな物がある時には代替品を提供している。又準備や後片付けもその方のできる力に合わせ一緒に行っている。季節感や色どりを考慮した献立で、目でも楽しめる工夫をしている。おやつもできる限り手作りし喜んでもらっている。会話を楽しみながら食事している。誕生会、行事は家族と食事を楽しめる機会を設けている。	利用者の嗜好や栄養バランスを考慮した食事を提供している。また、調理の盛り付けや食器洗い・食器拭き・片付け等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況、健康状態の把握に努め食事量、栄養バランス、嗜好、形態等を考慮し調理を行っている。水分摂取量が少量な方にも声掛けをして一日を通じて摂取できる様にしたし、食事が摂取できない時には口当たりの良い物や栄養補助食品等で補っている。状態により水分、食事量を記録している。体重測定を毎日行っている利用者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前、夕食後に口腔ケア・義歯洗浄をしている。自分で行える所は行ってもらい、不十分な時は一部介助し清潔にしている。口腔状態を確認している。昼食、夕食前には緑茶でうがいをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いパターンを把握、本人の状態を察知して失禁がある方はリハパンを使用し時間でトイレ案内し、失敗して自尊心を傷つけないように支援している。夜間、覚醒しない方はオムツ・パットを着用し定時パットを確認し交換している。	一人ひとりの力や習慣を活かして、水分、排泄のチェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるように支援している。トイレ誘導はさりげない声かけや羞恥心への配慮を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分を多く摂取し自然排便を促す他、朝食前に牛乳や個々にセンナ茶、野菜ジュース等、食物繊維を多く摂取できるように考慮している。毎日ラジオ体操や手足の運動を行っている。排便のチェックをしている。トイレにゆっくり座ってもらうようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に配慮し好みの温度に調節したり、本人のペースに合わせた入浴時間にし、リラックスできるように心掛けている。一緒に会話をしたり歌を歌って楽しみ安心できる雰囲気大切にしている。入浴したくない時は翌日にしたり、入りたいという希望があったら朝でも入浴できるようにし希望に添っている。冬期は暖房で脱衣所を温めている。	週2回以上を目安に無理強いしないよう一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣を大切にして、楽しくリラックスして入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安を訴える時、夜間眠れない時にはゆっくり話を聞き安心できる声掛けをしたり、ホットミルク等を摂取してもらい臥床してもらう。日中適度な活動の声掛けをするが休息は自由に行ってもらったり、傾眠している方には居室での休息を促している。遅くまで起きている方には飲み物を提供している。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬がないように職員全員がマニュアルを理解し、服薬時は名前を声に出し確認している。処方薬について変更等があれば引継ノートと服薬ノートに記入し職員全員に周知し、その後の経過の観察を行っている。嚥下状態を把握し服薬が困難な方には医師に相談し散剤にしたりオリゴ糖、ココア等に混ぜる等個々に応じた形態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな歌を歌う、パズル、塗り絵、カラオケ、ゲームをする、台所仕事を一緒に行う等、日々の会話や昔話の中から本人が好む事、やってみたい事を見つけたり、生活歴や趣味、特技を生かしその方に合わせてできる事をして楽しんで頂ける様支援している。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながら日光浴や散歩、昔住んでいた場所や思い出の場所へのドライブ、外食、買い物、花見、紅葉狩りをしたり、製作・出品した市役所での作品展に出かけたり、町内の作品展等の見学に出かけている。誕生日に本人の希望で外食している方もいる。誕生日を家族と過ごせる様支援している。	一人ひとりのその日の希望に添って、本人の懐かしい場所や行きたい場所等へのドライブ、季節が感じられるよう花見や紅葉散策、地域行事やお祭りへの参加等で戸外に出かけられるように支援している。また、散歩や買い物、外気浴も日常的に行い、外食する機会も設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から頂いたお金を本人が所持できる様に支援している。お金を使用できる方が少なくなってきたが、できる方には、買い物時に本人に財布を持ってもらい支払ができる様支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来たり、手紙や荷物が届いたら電話をかけて本人に代わって話しをしてもらい家族の声を聞いて安心してもらっている。又本人の希望に応じ電話をかけ、本人に話してもらおう等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室にはプレートを掛け場所がわかり混乱しないようにしている。湿度、温度等も空気清浄機や加湿器を設置し心地よく過ごせる様にしている。又、行事を大切に、季節に応じた装飾や花を飾り季節感を味わえる様にしている。利用者の塗り絵や貼り絵等の作品を飾り落ち着けて、ぬくもりのある空間作りに努めている。時間帯、季節により明かりを調整する。天気の良い日にはベランダを開けて出て一緒に外気に触れる事で四季を感じてもらっている。	共用空間には、広くゆったりし、窓は大きく採光を採り入れ清潔感が漂っていると共に壁には貼り絵やぬり絵、習字等の利用者の作品の掲示や観葉植物の配置、季節毎の行事参加の写真等が飾られ本人が居心地よく過ごせるように工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のフロアで気に入った場所や気の合う利用者把握しソファにて他者と話しができる様にしたり、好きなテレビ、雑誌を見て過ごして頂いたり、安心できる場所で塗り絵を塗ったり個々に自由に過ごしている。フロア以外の一人になれる場所を確保し静かに過ごす時間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居時に自分の馴染みの物を持って来て過ごしやすくしている。又家族も本人希望の物を持って来て心地よく過ごせる様にしている。家族からの思い出の写真や仏壇、本人の作品(塗り絵等)、花や椅子等本人が安心できる物を置いている。生活用品は使いやすいように整理したり、タンスにラベルを貼り識別できる様にしている。居室内の安全な動線を確保する為、家族と相談しながら家具等の配置をしている。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族との思い出の写真などが飾られて、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂、廊下等に手摺り、プレートを設置している。居室には表札を掛けている。ナースコール設置あり。使用できる方で必要時には職員を呼ぶ様に声を掛けている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100933		
法人名	有限会社 グッドウィル		
事業所名	グループホーム 武佐の杜		
所在地	北海道釧路市武佐1丁目9番24号		
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0174100933-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者は認知症であっても地域社会の一員であるという思いを理念にしており、職員会議での研修報告で、振り返りを行うことで意識を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して町内会長、女性部、地域のボランティアの方々に、ホームの運営や利用者の生活状況について開示しご理解、ご協力を求めている。ホームの行事や避難訓練へ参加して頂き交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の包括支援センターを通して、近隣の在宅で認知症介護をしている家族の方が見学し、ホームで暮らしている利用者の様子に触れ参考にされている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、経過報告や利用者の状況、ヒヤリハット、事故報告、行事、研修報告を行い家族会や町内会長・包括センターの方々からの意見をもらいサービスに活かしている。外部・自己評価について取り組み状況、経過、結果を報告し意見を求める。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは相談、連絡を密にしている。地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて相談、助言を頂きサービスの向上に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を受け職員会議の中で報告、確認し統一したケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員会議で勉強会を行い、統一したケアに努めている。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所は、研修を受けて理解に努めている。必要になる方については、市役所に相談し、活用に向けて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族等に、特にホームでの生活の継続が困難な場合の説明を十分に行い、納得の上で契約を結ぶよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満・苦情等については、訴え時しっかり傾聴し会議でも話し合い解決に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のフロア会議で職員の意見や提案を聞くようにしている。事業者は年1回個人面談を行い一人一人の意見を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長、管理者と連携を取り、又個人面談での意見を参考にし働きやすい就業環境を整備するよう取り組む。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修を受ける機会を確保しており、管理者はその為の勤務調整を行っている。常に学ぶ意識を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交換研修や勉強会等の機会を設けている。又、そのときの報告を会議にて行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人に関わった事業者や病院などから情報収集をし本人の意見や思いを傾聴し安心してサービスを継続出来るように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談や意向を充分傾聴し不安要因の軽減に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族との話し合いの中で何が必要なのか職員間でも協議しながら初期支援計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事になるべく着目し(洗濯・掃除・調理・縫い物等・畑仕事)職員と一緒に生き生きと生活出来る関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には、日々の様子を伝えており本人の意向や訴えに対しても電話連絡をし催し物などの案内を行い時間を共有出来るように働き掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来設の際居室にてくつろいで頂ける様な対応また来訪していただける様な雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護員が間に入り関係作りを支援している。本人に合った役割を持ち時には、助け合い、支えあいながら生活を送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の来設時には、いつでも立ち寄って頂けるよう声をかけている。退居してからも相談を頂いたり、様子を報告頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にアセスメントの記入をお願いしている。本人との会話の中で趣味・嗜好又経験等、表情や言動から本人の思いを汲み取る様に努めている。職員は関わりの中で変化する利用者の気持ちに引き合せて得た情報を業務日誌に記録し会議や申し送りで共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や関係者等から話を聞きより多くの情報を得る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を業務日誌や本人の会話から把握し、健康状態を観察、検討し過ごし方に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題・短期・長期目標等を会議で話し合い、家族の気持ちや、家族、職員の意見を取り入れ利用者の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に概況を記録している。又申し送りノートの他申し送りの時間を設け確実な伝達と共有を図っている。抽象的な言葉ではなく具体的な言葉で記入している。家族と話し合いプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて通院や外出の支援をしている。食事は好き嫌いや健康状態に適した献立にする等配慮に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加している。ホームで開催している秋祭りでは町内周辺にチラシを配布し参加を呼び掛け、参加して頂いており交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診している。ホームの協力医との連携に努めており、家族の希望や相談に応じて依頼している。最近では通院が困難なケースが増え往診の利用が多くなっている。受診結果は通院記録等に記入し次回に適切な医療を受けられるように努めている。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員と連携を取り適時に健康管理、医療支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホームよりフェイスシート、アセスメント等を送っている。口頭で説明し情報をできるだけ詳細に伝える様になっている。医療機関からの相談にも即時対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認し本人にとってどうあったら良いか段階ごとに医師、家族と連携を取り対応、方針の共有を図る。重度化のマニュアルや指針を入居時に説明している。現在まで看取りの経験はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し定期的に訓練に参加している。急変時の対応方法は掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。災害発生時には地域の方々との協力体制もできており連絡網もある。日中、夜間想定火災の避難訓練を実施している。地域の方々の参加もあり、通報する関係機関の連絡網等を整備している。災害時備蓄庫を設置し備品を用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握、行動を観察しその人の内面の理解に努め、同じ目線で穏やかな心ある言葉掛けを考慮したり、本人の気持ちに沿った対応や、トイレ誘導等はプライドを傷つけない声掛けを心がけている。無理強いせず状況に合った、押しつけではない様な、選択ができる様な言葉掛けを心掛けている。不適切な言動があった時は介護員間で声を掛け合うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝えてもらえる信頼関係作りを日々の関わりの中で心掛けている。通院時や訪室時等ゆっくり話を傾聴している。希望に耳を傾け、思いを尊重し無理強いせず見守りながら自己決定、自己表現しやすい雰囲気をつくる様に努めている。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で希望に添えないこともあるがその時できなくても後で支援できる様調整している。訴えの少ない方にはこちらからアプローチし希望を聞きだし体調やペースを大切にしながら支援する様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理美容室と交流があり、本人の希望のヘアスタイルにしてもらっている。清潔な衣服の着用、頭髪、洗面、髭そり、ボタンかけ、ファスナー等できない所を介助して。選択できる利用者には希望を聞きその人に合った服装にしている。鏡を見てもらう様声かけをしている。一緒に買い物へ出掛け、好みの衣服を購入している。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いたり行事食等を提供し楽しみの一つになっている。嫌いな物、食欲がない時には代替品を提供している。柔らかく食べやすい物、彩りの良い物の提供を心掛けている。芋の皮むき、もやしのひげ根取り等の準備等できる事は一緒に行っている。茶碗拭き、片付け等も職員と共に楽しく会話しながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量も本人の希望に応じて調節し水分も本人の希望の飲み物で摂取できる様にしている。食事形態もその方に応じ柔らかくしたり、粗刻みにして摂取しやすい様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態やできる力に応じ食後の口腔ケアの介助をしている。食前は緑茶でうがいをしている。口臭が強い時は医師に相談したり洗口液を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、排泄の失敗の減少に努めている。自力で行う事を最優先にしている。表情や動き等のサインを見逃さないようにしている。夜間はリハパン使用の方も昼間は布パンツで、時間でトイレ案内して失敗しない様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後のラジオ体操を実施している。朝のセンナ茶、牛乳、食物繊維の多い物、ヨーグルト等を提供したり食事時以外にも多めに摂取する様に支援している。天気の良い日は近隣の散歩をする様に心掛けている。利用者に合わせて下剤を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状況、希望に合わせてできる所は自力で洗身してもらう様な入浴を心がけている。ゆっくりと会話を楽しんだり歌を唄ったりしている。拒否がある時には無理強いせず日を改めて声を掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとり違い、ペースに合わせている。不安を訴える時は傾聴し安心してもらえる声掛けを心がけている。眠れない時にはホットミルク、ゼリー等消化の良い物を提供し安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を使用し飲み忘れや誤薬がない様に努めている。薬の変更や新しく処方されたもの等は各担当者が引き継ぎノートと服薬ノートに記入し全員が把握できるようにしている。薬について介護員、家族と話し合ったり医師に相談をしている。用法、用量の理解に努めている。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器・テーブル拭き、調理、掃除、洗濯物たたみ等の役割ができており、利用者同士協力し合う場面も見られている。塗り絵やトランプ、カラオケ、POPやメモ紙作り等を一緒に行ったり、ドライブに出かけたり個々の希望に沿った支援をしている。		

グループホーム 武佐の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員同士協力しながら希望、天候、体調を考慮し、散歩、買い物、ドライブへ外出したり、誕生日には職員やご家族と外食を楽しむ等一人ひとりに合った支援を心がけている。共に外出し外食を楽しまれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自己管理している方もいる。買い物し、自分で支払う様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度希望により対応している。遠方の家族や知人からの電話を本人に繋ぎ話してもらったり手紙のやりとりや贈り物をする支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室にはプレートを掛けている。共有空間には一人ひとりが書いた習字やぬりえ、生活感や季節感を取り入れた花や飾り物(POP作成)を会話を楽しみながら一緒に作成して飾り、居心地の良い雰囲気作りを心がけている。カーテンで光を調整、テレビの音量に配慮、空気清浄機、加湿器を設置し温度、湿度をこまめに調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや談話室、西側廊下等、一人ひとりが好きな場所で自由にマイペースに過ごしている。居心地の良い席配置を行い利用者同士で交流ができる居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、家具等本人の好みの物を置く様にしている。大切な人形や写真を飾っている方もいる。できない所の清掃、季節の物を装飾する等の工夫をしている。危険防止の為に配置変更については本人、家族へ相談、了解の上行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアにプレートを掛ける事で誘導しなくても迷う事なく自力で行くことができる。身体状況に応じた配置にし安全に生活できる環境を整えている。使用できる方にはナースコールを使用してもらっている。必要な個所に手すりを設置している。一人一人が自信に繋がる様、声かけ、見守りをしている。		

目標達成計画

作成日：平成 26年 11月 30日

市町村受理日：平成 27年 4月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	研修を重ね意識を共有する事で、現状は人格を尊重した言葉かけ、対応が概ねできているが新入職員の他、経験年数が長い職員の慣れ・親し過ぎる言葉遣い等がある為、適切な対応になっていない事がある。	職員は、利用者への言動は人格を尊重した適切なものなのかを常に意識する。	外部研修への参加、自主研修等で自己のケアを振り返り職員全員で意識を共有する。職員間の建設的な意見の交換で質の向上を目指す。新入職員については管理者からその都度声かけをし意識を促す。	2年
2	37	認知症の進行により、思いを表出することや理解、行動が困難なことがある。	利用者の言葉、表情を観察しゆっくり自己決定できるように支援する。	職員の意識を統一し、日常の業務の中でも利用者に寄り添う時間を大切にする。	2年
3	38	職員の都合で希望に沿えない事がある。	どのように過ごしたいか、その時の希望にあった支援ができるように努める。その時にできなくても利用者へその旨を伝え後からでも希望に沿える様にする。	職員配置についてホーム長、管理者と検討し必要な体制を整える。業務の精査・適正化。ケア会議等で職員の意識を統一する。	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。